

h. 評価

プロジェクトの評価は、通常プロジェクト実施期間の中間時と終了時にプロジェクト・チームによって実施される。評価段階で重点となることは、プロジェクトから影響を受けた人々の評価への参加、プロジェクトの成果が男女別に示されジェンダー配慮がなされているか、社会的持続性に関する情報が含まれているか、予期せぬ結果に対する対応策があるか等となっている。

評価段階では、プロジェクトの当初の目的にWIDの目標が明確に記載されていたかいないかにかかわらず、すべての評価において社会・ジェンダー分析がなされる。

評価計画において社会・ジェンダー配慮がなされたかを確認する項目

1. 関係組織・機関、影響を受けるグループ、不利な立場にいる集団が最終評価に参加するか。
2. 不利な立場にいる集団や影響を受けるグループに対するプロジェクトの成果が男女別に報告されているか。
3. ターゲット・グループ、影響を受ける集団、関連組織・機関における男女別の参加の状況に関する情報があるか。
4. プロジェクトの社会的持続性に関する情報が含まれているか。
5. 予期せぬ結果を評価する指標があるか。
6. モニタリングや評価で得られた情報を反映した、明確で実施可能な提言があるか。

5-2 社会・ジェンダー分析の適用の現状

以上がCIDAのプロジェクト・サイクルで社会・ジェンダー分析を適用し、その分析結果を反映させるための望ましいプロセスを示したものである。ここでは、計画段階と実施段階での社会・ジェンダー分析の適用状況と適用上の課題について述べる。

5-2-1 CIDA本部での現状認識

(1) 計画段階

CIDAは、1992年にCIDA内部でのWIDの進捗状況に関する評価調査を実施した。この調査では、二国間援助に関わるCIDA職員84名に対してアンケート調査が実施され、59名の回答を得た。この調査では、CIDA職員は「CIDAは組織として計画段階においてWID配慮を実施している」ことを評価しているものの、自分達は日常の業務においてWID配慮を実施していないことが示された。また、計画段階でWID配慮を実施する上で重要な指標であるとされるPAMアネックスについても、その作成意義を疑問視する傾向が見られた。

CIDA全体としての計画段階におけるWID配慮の実施状況については、70%が「成功している」と回答している⁴⁵。また、回答者の80%がWID研修を受けたことがあり、程度の差があるものの、WIDについて知識があると回答した者は、全体の100%となる。

しかし、WIDを推進する上での障害として「職員のWIDに対する理解がないこと」が重大と回答した者は56%もあり、全職員がWIDに関する知識を持って

⁴⁵ 成功しているとする具体的な指標については明記されていない。選択肢は「非常に成功している(2%)」「成功している(70%)」「まあまあ成功している(26%)」「失敗している(2%)」となっている。

はいるもののその程度に大きなバラツキがあると考えられる。^{注6}

計画段階におけるWID配慮が反映されるPAMのPAMアネックスの意義については、ほとんどすべての人が懐疑的な見解を示していることも指摘されている。例えば、

- ・PAMアネックスの作成は、単なる機械的な作業である。
- ・PAMアネックスでは、現実の女性の状況や地位が反映されていない。
- ・もしWID配慮を実施しようとするのであれば、PAMアネックスは意味をなさない。

プロジェクトを考える上の視点であれば、アネックスになるはずがない。

などといった認識がある。現在、CIDAのWID担当官を中心として、計画段階での書類（PAMやPOP）へのWID配慮を実施する為に、それ以前の段階で社会・ジェンダー分析をする必要性が認識され始め、PAMアネックスを、PAMよりも前の段階で作成されるPIMに添付する方向で議論が進んでいる。

(2) 実施段階

上記の評価調査の結果、実施段階でのWIDの実施に関する組織全体への評価は、計画段階に較べて低いことが示された。実施段階でWIDが配慮されない理由として、CEAの問題を指摘している。

注6

WIDを促進する上での問題と指摘された項目¹⁾

項目	7段階評価で5以上の回答をした者の割合 ²⁾
1.組織内におけるWID	24%
2.コンサルタントの専門的知識	24%
3.WIDの本部組織	37%
4.目的の明確さ	39%
5.職員のコミットメント	52%
6.WIDに対する職員の理解	56%
7.職員の時間と資源の不足	67%
8.国別の職員の位置付け	65%
9.CEAのコミットメント	80%

注 1.数字が高いほど問題視する傾向が高い

2.二国間援助関係のCIDA職員44名の回答より作成された。

出典：CIDA, Gender as Cross -Cutting Theme in CIDA's Development Assistance- An Evaluation of CIDA's WID Policy and Activities 1984-1992, 1992.

CIDA組織全体として計画段階でのWID配慮の実施状況については、70%が「成功している」と回答した。これに対して、実施段階では62%とのその割合が低くなっている。更に、CIDAでWID配慮を推進する上で「CEAのWIDへの関わり方（commitment）」を問題とした者の割合がもっとも高く、回答者の80%がこれを大きな障害として捉えている。

CIDA職員個人レベルで、ハーバード分析や社会・ジェンダー分析を「自らあるいはコンサルタントを通じて適用したことがある」と回答したのは20%にとどまっている。実施率が低い理由には、職員が社会・ジェンダー分析の意義を認識していないことが指摘されている。また、他の調査では、社会・ジェンダー分析手法がプロジェクトへの適応を考慮して開発されたにもかかわらず、その実施が難しいことが指摘されている¹¹⁷。WID政策を実施するための具体的な目標を設定した「WIDアクションプラン」の中で、社会・ジェンダー分析の実施能力は、CIDA職員の能力を査定する（performance evaluation）上で重要な項目となっている。しかしながら、今回の評価調査では「それが重要である」と回答したのはわずか14%にとどまっており、社会・ジェンダー分析の意義を認めている職員が少ないことがわかる。

5-2-2 プロジェクト・サイトでの社会・ジェンダー配慮の適用状況

ここでは、1993年11月から12月にかけてコスタリカ、ホンジュラスで行われた現地調査のケースをもとに、契約に明記された業務をプロジェクト実施機関（CEA）が遂行する上での課題を検討する。

(1) コスタリカ CIDA-WWF Arenal Conservation and Development Project プロジェクト概要

（財）世界自然保護基金（World Wide Fund For Nature=WWF）は、1961年に設立された世界最大の自然保護のNGOである。WWFの活動目的は、自然環境の悪化を食い止めるだけでなく、人が自然と調和して生きられるような開発の促進を含む。1991年に、CIDAは、WWFを通じてコスタリカのアレナル保全地域の環境保全プロジェクトを支援することを決定した。CIDAはWWFに資金を提供し、WWFはコスタリカの現地オフィス・スタッフと協力

¹¹⁷ CIDA Experience in Gender and Development 1985-1991, CIDA, 1992

してプロジェクトの活動を支援する為の技術的なアドバイスをする。コスタリカのカウンタパートの自然資源エネルギー鉱物省（Ministry of Natural Resource, Energy and Mines=MIRENEM）は、人材の提供を行う。

プロジェクト活動の中心は、アレナル地域の総合的な環境保全と持続的な開発を実施するために、アレナル地域で独自に活動している民間団体やNGO、政府組織間の協力体制を構築すること、およびMIRENEMの組織強化となっている。また、プロジェクトの一部として、プロジェクト・サイトに住んでいる人々を対象として生計向上プロジェクトが実施されている。プロジェクトの実施期間は、1991年から1994年となっており、1994年にはCIDAからの評価団が訪問する。プロジェクト対象地域は、8つの保護地区を含むアレナル保全地区（82,165ha）となっている。

WID配慮および社会・ジェンダー分析適用の現状

プロジェクトの実施目標の中には、コミュニティーや女性を対象とした小規模プロジェクトを実施することが明記されている。しかし、プロジェクトを開始した時期がCIDAで社会・ジェンダー分析を開始した時期よりも早かったこともあって、計画段階で社会・ジェンダー分析は適用されなかった。

現在、WWFは、プロジェクトでのWID配慮を促進するために、MIRENEMの関連職員やプロジェクト関係者に対してジェンダー分析手法の研修を実施している。しかし、WWFスタッフは、分析結果をプロジェクトに反映させる方法を模索中で、まだ社会・ジェンダー分析研修の成果はプロジェクトに反映されていない。WWFは、社会・ジェンダー分析研修の成果をプロジェクトに反映できるように、WIDコンサルタントの要請を検討している。

プロジェクト活動では、現在、女性を対象とする裁縫や手工芸の訓練が幾つか提供されている。製品は市場での販売を目的としておらず、従って訓練を開始するにあたって、その製品についての市場分析も実施されなかった。参加者はプロジェクトからの融資で活動のための資材を購入した。現在、製品の販売を通じてその返済を開始しているが、今後活動を維持していくための具体的な見通しは立っていない。また、これらの生計向上活動の内容と環境保全プロジェクトの目的とは全く関連がなく、とりあえず中間評価を前に

して女性を対象とした活動を実施しているという印象があった。以上のようなことから、プロジェクト対象地域について、社会・ジェンダー分析を実施したとしても、WID配慮を実施しているとは言い難い。しかしながら、女性達が集まって活動することすら難しい状況であったものが、プロジェクトの支援により村の男性や家族員の了解を得て、これが可能になったことは評価できる。

(2) ホンデュラス CIDA-CARE Water Supply and Sanitation Project

プロジェクト概要

ケア（CARE）は、第二次世界大戦後、緊急援助を中心として活動をしてきた世界的に知名度の高い国際NGOである。現在は、持続的な開発を目指した援助へと活動範囲を拡大し、農村地域での開発活動に力を注いでいる。1991年に、CIDAは、CAREのカナダ支部、CARE CANADA を通じてホンデュラスの生活用水／衛生プロジェクトを支援することを決定した。CIDAはCARE CANADAに資金を提供し、CARE CANADAはホンデュラスのCAREと協力してプロジェクトの活動を支援するアドバイザーを派遣する。そして、ホンデュラス国家水道局（Honduras National Water Authority=SANNA）からは、技術的な協力がなされている。

プロジェクト活動の中心は、農村部への生活用水の供給とトイレの設置となる。プロジェクト実施期間は1991年から1995年で、75コミュニティー、約22,500人が対象となる。このプロジェクトの特徴は、生活用水確保の為の調査、計画、工事、管理、運営などが完全な住民参加によってなされることにある。CARE側からは、これらの活動を住民が担えるようになることを目的として住民の組織化がなされ、訓練が提供される。資材は、水源タンクとタンクを結ぶパイプラインが提供される。訓練は、CAREに雇われた13名のプロモーター（男性7名、女性6名）によって行われ、その内容は流域管理、パイプの設置方法、水源の見つけ方、維持管理方法など多岐にわたる。

WID配慮及び社会・ジェンダー分析適用の現状

このプロジェクトでは、CIDAの業務指示書の中でWID配慮が明記されており、CAREも組織としてWIDを重要項目として認識している。また、SANNA、コミュニティー、CAREの3者協定においても女性の参加を促進することが明

記されている。現在、プロジェクトの調査、計画、運営すべての段階で女性の平等な参加が見られる。また、訓練への参加や住民の組織化の過程で委員会が設立された場合には、委員の半数が女性となっており、プロジェクト全体を通じて女性の参加が実施され、彼女達の意見がプロジェクトに反映されていた。

対象社会の分析は、CAREでなく住民によって実施される。住民は、人口、家族構成、労働状況といった対象社会の基礎的な情報を収集する調査の他に、水源調査などといった技術的な調査を実施する。この際、ジェンダー分析は適用されないものの、男性と女性が調査に参加しデータを収集する。ここで興味深いことは、男性と女性が一緒に調査に行き、調査を通じて互いの違いを認識しジェンダーの視点を持つようになり、結果としてジェンダー配慮がプロジェクトにおいてなされることである。

今回視察した2カ所のプロジェクト・サイトでは、地域男女の協力によってプロジェクトが実施されており、今のところその運営管理においても持続性が保たれている。

5-3 CIDAの事例にみられた課題

5-3-1 計画段階

計画段階で、社会・ジェンダー分析を導入する上で最も重要な役割を果たすのは、プロジェクト・チーム・リーダー（TPL）となる。PTLが、対象社会を分析する上で社会・ジェンダー分析の意義を認め、それができる専門家をプロジェクト・チームに入れることにより具体的な分析が実施される。更に、PTLは分析結果を総括し、プロジェクト実施機関との契約にそれを反映させる。現在、CIDAでは、契約書類の中に社会・ジェンダー分析の実施を反映させる方法を示した手引書やチェック・リストをPTLの為に作成している。しかし、上記の結果にみられるとおり、CIDA職員の個人レベルでのWIDへの関わり方や社会・ジェンダー分析に対する理解は必ずしも高くなく、これらの書類が活用されていない。

計画段階での主な課題は、CIDA職員がプロジェクトを実施する上でのジェンダー配慮あるいは、不利な立場にいる集団への配慮をすることの意義を理解し、その手法としての社会・ジェンダー分析の位置付けを把握することである。具体的な分析手法を理解することは、その次の課題となろう。一方、対象社会の分析は、現地の状況に精通した現地コンサルタントや専門家が行う方がプロジェクトに対してより現実的な分析結果を提供できると思われる。

5-3-2 実施段階

コスタリカのケースでは、実施計画書にWID配慮が明記されているにもかかわらず、プロジェクト・レベルではそれが行われていないことが示された。ここでの問題は、プロジェクト・レベルで、女性達の要望に応えた活動が実施されたものの、対象社会や人々の状況に関してなんら分析がなされなかった為に、それらの活動の持続性が低いことである。

プロジェクト関係者は、社会・ジェンダー分析の手法を学んだにもかかわらず、それをプロジェクトへ反映できずに苦勞していた。一方、ホンジュラスのケースでは、社会・ジェンダー分析は実施されなかったが、住民達が客観的にジェンダーの視点を持って自分達の社会の分析を行ったために、男性と女性に対して平等な開発が促進され、持続性が確保されていることが示された。

社会・ジェンダー分析を実施する上で最も重要なことは、その分析手法を実施する者が客観性を保持することである。ジェンダーは、個々人の日常生活にもかかわる問題なので本人が気づかないうちにバイアスを持つことが多く、客観性を保持することが難しい。しかし、対象社会でWID配慮を実施するためにはこのようなジェンダーについての客観性が不可欠である。

社会・ジェンダー分析を実施する意義は、対象社会の状況をきめ細かく把握することにある。しかし、もう一つの大きな意義は、実施者がプロジェクトにおいてこの手法を適用することによって、自らのバイアスや偏見に気づくきっかけを提供することにあると思われる。

6. WID配慮の推進および 社会・ジェンダー分析導入のための課題

6-1 WID配慮推進のための課題

6-1-1 WIDに関する基本政策、各種ガイドラインの整備

WID推進のために様々なレベルでの対策を積み重ねてきた結果、各援助機関ではWIDに関する総合的対策が必要であることが判明してきた。具体的には以下の各項目ごとに対策が講じられるのが効果的であると思われる。

- a. 政策
- b. 戦略
- c. プロジェクト・ガイドライン
- d. セクター・ガイドライン
- e. 国別WIDガイドライン

a. 政策

政策には大きく分けて (1) その援助機関がWIDをどのように理解し、その上で何を成し遂げたいのかを組織内外に表明する「組織としてのWID政策」と

(2) 組織内でWIDを推進するための「内部的なWID政策」の二つがある。組織としてのWID政策は、それに続く様々な活動の基本的立場や考え方を示すだけに、できる限り明確なことが望ましい。一方、内部的なWID政策では、例えば、WID専門家を何年以内にしかるべき数を確保する等、人的また組織的側面に関する具体的な対策が含まれる。

b. 戦略

次にWID戦略を策定し、政策を推し進める上でのアプローチ方法を明確にする。その上で可能であれば時間的予定を伴った行動計画が準備されることが望ましい。行動計画にはある程度の数値目標が設定されてもよいかもしれない。ただし、あまり意味のない数値目標の設定はWIDそのものの趣旨に反し弊害を生むので注意が必要である。たとえば、単にプロジェクトにかかわる女性専門家の数を男性と同等にする試みなどは、それほど意味のある数値目標とはいえないであろう。女性専門家の数が増えれば、WIDが進むと単純には言いきれないからである。

c. プロジェクト・ガイドライン

戦略を実行に移すのは多くの場合プロジェクトであるので、プロジェクト・ガイドラインが次に必要となる。プロジェクト・ガイドラインとはプロジェクト管理の各段階においていかなるポイントに注意すべきかを分かりやすく示す文書のことである。案件の発掘や実施等、各段階での実践的アドバイスをまとめたガイドラインが有効であろう。USAID等はその様なプロジェクト・ガイドラインを持っている。JICA でも『WID配慮の手引書』（1993）が既にこの点において重要な第一歩を記している。

d. セクター・ガイドライン

WID配慮の推進にともない、ミクロレベルのプロジェクトからセクターへ、またセクターから国レベルへと、ジェンダーを考慮する対象を移してきた。これは必ずしもミクロレベルのプロジェクトがWID配慮を進めるに当たって持つ重要性を否定するものはない。セクター・ガイドラインが必要と考えられるようになったのは、セクターや政策環境が整わないと個別プロジェクトもあまり効果的ではないとの反省からである。

セクター・ガイドラインは、例えば「林業と女性」といったテーマ別の女性の状況と、WID配慮のための課題、またWID推進の可能性についての方向性を打ち出すものである。セクターが違えば女性の抱える問題および問題への対処方法も変わることが十分考えられるゆえに、このようなセクター・ガイドラインの策定は、きめ細かいWID配慮をするには有効と考えられる。たとえば、CIDAは1989年にセクター別ガイドライン⁴¹を作成し、さらにそれを発展させたものとして漁業と女性との関係を分析した冊子⁴²を1993年に作成した。今後CIDAでは同種の冊子を他の分野においても作成する予定である。

e. 国別WIDガイドライン

セクターの上に位置するのが国レベルである。各援助機関は、イスラム教諸国など幾つかの開発途上国において、国レベルのWIDガイドラインを策定し始めた。この方向性は、WID配慮を効果的に行うためには、ミクロのプロジェクトだけではなく国レベルからの支援も不可欠との認識により生まれてきた。特に、イスラム教諸国においては、それ以外の諸国とは女性を開発の立役者に推

⁴¹ CIDA, *Women in Development: A Sectoral Perspective*, 1989.

⁴² CIDA, *Women and Fisheries Development*, 1993.

進する上で違った難しさがあることが確認されており、ODAはパキスタンにおいて、CIDAはバングラデシュにおいて国レベルの戦略を策定した。同様の理由でUNDPのインドの現地事務所がWID専門家の必要性を感じている。これらの動きは援助活動の有効性を高めるためには、ジェンダー分析や配慮を国レベルで行う必要があると認識されてきたことを示している。

6-1-2 WID推進のための体制整備

a.組織体制整備

WID推進のために組織体制を整える際には、第3章でみてきたように、WID事務所を事業部とは別に設けるか否か、もしそうであればどのような役割を負うか等が慎重に検討されなければならない。検討する際の最大の課題は、本報告書でも繰り返し触れてきたように、WIDを推進する立場にいる職員（キー・パーソン）と実際プロジェクトの立案、運営に携わる事業部の職員との連携をいかに作り出すかということである。各援助機関の経験からすると、WID課の設立やWID担当官の増員は、確かに組織内でWIDを推進する大きな一歩であることがわかる。しかし、WID担当官ばかりがWID推進の業務や責任を背負い込んでしまっただけでは、プロジェクトの運営・管理業務を含む様々な業務や責任を抱える事業部の職員との間のギャップを広げる結果に繋がる恐れがある。

日本の援助機関の実施するプロジェクト事業は今のところ専門分野に特化したものが多い。従って、各事業部におけるWIDの浸透もCIDAのような組織に比べ、より困難が伴うと考えられる。多くの援助機関の経験から学ぶべきことは、WIDを推進する立場にある課や担当官が、事業部の職員との円滑なコミュニケーションを図るネットワークを作る重要性を認識すると共に、事業部内でのWIDの浸透の度合を定期的に査定する内部評価報告のシステムを持つことであろう。事業部のWIDへの理解の度合が把握されていれば、事業部の認識を考慮した現実的な研修プログラムや手法の的確な改善が可能になる。

b.WID専門家の育成およびWIDコンサルタントの活用

組織内でのWID専門家や職員研修の講師の育成もWID配慮を援助機関内で押し進めていく上で大切である。具体的には、新規職員の採用時の研修、職員全体への研修等が考えられるが、これには時間がかかるため、十分計画的に進める必要がある。また、コンサルタントを雇う場合は、WIDコンサルタントと他

のコンサルタントとの役割分担を明確にしなければならない。役割分担がはっきりしないと、WID担当官が副次的な扱いしか受けず、結果としてWID配慮が二の次になるからである。役割分担の明確化のためには、プロジェクト文書の改良の必要も出てくるかも知れない。

6-1-3 WID配慮案件のスクリーニング方法の確立

WID配慮のためには、CIDAのPAMアネックスのようなチェックリストの作成を義務づけることが効果的な場合もある。ただし、このようなチェックリストが、実際にはあまりWID配慮をするのに熱心でない職員に、「チェックリストに記入したのでWID配慮はしたことにする」との言い訳に使われてしまえばWID配慮を進めること自体が危うくなる。チェックリスト導入の際には、「免罪符的」チェックリストにならないよう注意する必要がある。

また、組織内でWIDを議論できるような雰囲気作りも大切であろう。ただし、世界銀行など、職員の体質や組織内部での意志決定の方法が専門分野尊重の傾向にある場合は、組織改革を含めた抜本的な対策を優先させるべきであろう。

6-1-4 他機関との情報交換の推進

途上国においてWIDを推進する際の援助面での協力のみならず、組織内部の体制作りの経験を生かす意味でも、他の援助機関との交流が進められるべきであろう。これはUNIFEMやODAをはじめ多くの援助機関が共通に指摘する点である。とりわけ次の側面において援助機関相互の協調が大切であると思われる⁴³。

- i. WID推進のための効果的組織づくり
- ii. 途上国との政策対話を実施する
- iii. WIDの進捗状況を計る指標を開発する
- vi. 国際的な場でWIDを重要な議題として継続的に提起する
- v. WID推進にあたっての政治的意志の持続を図る

特に近年、援助の有効性を高める上で援助対象国政府との政策対話の重要性が指摘されている。WIDは対象国の男女の役割という「文化的」側面での変化

⁴³ Rounaq Jahan, Mainstreaming Women in Development in Different Settings. A paper presented to OECD/DAC/WID Expert Group in March 1992.

を引き起こす可能性が大きく、一部の途上国では未だに政治的に受け入れられないことも多いだけに、途上国政府や諸団体との政策対話は極めて重要であろう。

6-2 社会・ジェンダー分析手法を導入する際の課題

6-2-1 研修による職員のWID理解促進

先に述べたWID配慮や社会・ジェンダー分析に関する分野別、国別ガイドラインの作成などは実務レベルでWID配慮を実施していく上で今後無くてはならないものである。しかし、事業部の職員がWIDを行う根拠や意味を十分把握していなければ、いくらガイドラインが素晴らしいものであっても有効に活用されることは期待できない。

CIDAやUSAIDのように長年WIDに取り組んできた機関は、職員の研修に多大の労力を費やしてきた。組織替えや援助政策の変化にもかかわらず、これらの組織でWIDが絶え間なく推進され続けてきたのは、職員に対する地道な研修の成果だともいえよう。日本の援助機関におけるWIDの浸透を推進するにあたり今最も必要なのは、事業部職員向けの体系的で基礎的な研修プログラムを実施することにあると思われる。

WIDの意味が「女性」を限定した対象として扱う活動から、貧困や住民参画型開発などの概念と共に、持続的開発の中心的テーマになってきた現在、体系的で基礎的なWID研修を実施する効果は以前に比べ遥かに高いと思われる。

6-2-2 JICA独自の手法開発の必要性

JICAの事業方式にあった分析手法を開発し、それをプロジェクトの実施レベルで積極的に適用していくことが望まれる。ODAの例で示されたように社会・ジェンダー分析の必要性がプロジェクト実施レベルで理解されれば、組織での分析手法の適用は比較的容易になることが示されており、日本でもこのような展開が起こる可能性はある。本報告書で紹介した手法は、それぞれの援助機関のプロジェクト実施形態、予算形態、援助政策などを反映しているため、それをそのままJICAの事業に適用することは難しいものの、JICA独自の手法開発に

において大いに参考になると思われる。

現在、JICAではPCMの導入やグローバル・イシューなどへの対応を通じて、対象地域住民のニーズにそった援助を実施する方向で努力し始めている。このような状況の中で、社会・ジェンダー分析の必要性はますます高まっていくと考えられる。JICA独自の援助形態にあった社会・ジェンダー分析を開発すること、そして分析をプロジェクトのどの段階で実施していくかをPCMとの兼ね合いで検討することが、今後、よりきめ細かい援助を実現化するための鍵になっていくと思われる。

6-3 社会・ジェンダー分析の試行について

6-2-1で述べたように、JICAにおいてWID配慮を促進していくためにはJICAの協スキームにあった独自の社会・ジェンダー分析手法が開発されることが望まれる。しかし、現時点でも本報告書で紹介した社会・ジェンダー分析手法の活用は可能である。JICA事業においては、社会・ジェンダー分析で得られた情報は主に、1) 対象国や協力セクターの情報整備、2) より良い案件の発掘・形成、3) 効果的なプロジェクトの実施、4) プロジェクト効果の評価 のために活用できる。しかし、人的、時間的、制度的等の制約から、これらの4つの目的を達成するには、JICAだけで社会・ジェンダー分析を実施するのは現実的ではない。社会・ジェンダー分析実施にあたっては、現地に既に蓄積された情報を活用することが望ましく、現地で活動する他の援助機関、NGO、現地コンサルタント等との協力、連携が必要となる。以下、目的別に、社会・ジェンダー分析をどのように適用し、活用できるかを試行的に例示する（表7参照）。

表7 社会・ジェンダー分析実施に関わる関係者（例）

目的	JICA	協力者、情報提供者
対象国や協力セクターの 情報整備	- 企画部環境・女性課 - 在外事務所 - 企画調査員 - 在外専門調査員	・他国援助機関、国際機関の現地事務所 ・現地で活動するNGO ・現地の大学・研究所 ・ローカル・コンサルタント ・地域住民 ・対象国政府（統計局など） ・大使館 ・現地に派遣されている専門家及び協力隊員
より良い 案件の発掘・形成	・在外事務所 - 企画調査員 ・事前、プロ形調査団 - 社会環境配慮団員 - WID配慮団員 - 参加型団員	・他国援助機関、国際機関の現地事務所 ・現地で活動するNGO ・現地の大学・研究所 ・ローカル・コンサルタント ・地域住民 ・大使館 ・現地に派遣されている専門家及び協力隊員
効果的なプロジェクトの 実施	・担当事業部 ・派遣専門家	・他国援助機関、国際機関の現地事務所 ・現地で活動するNGO ・現地の大学・研究所 ・ローカル・コンサルタント ・地域住民 ・政府カウンターパート ・開発調査の本格調査団員 ・現地に派遣されている専門家及び協力隊員
プロジェクト効果の評価	・評価監理課 ・評価調査団員	・現地で活動するNGO ・現地の大学・研究所 ・ローカルコンサルタント ・地域住民 ・政府カウンターパート ・現地に派遣されている専門家および協力隊員

a. 対象国や協力セクターの情報整備

効果的な事業の実施やWID配慮優良案件の発掘のためには、日頃から援助対象国の概況や協力セクターの状況を性別によって把握しておくことが大切である。具体的には、在外事務所の企画調査員や在外専門調整員などが中心となって男女別の情報の収集を行うことが求められる。集める情報のレベルは、男女別統計資料といった概要的な情報から特定地域の男女の状況まで幅広くすることが望ましい。特定地域やセクター別の調査では、社会・ジェンダー分析を身につけた企画調査員を現地に派遣してサンプル調査を行うことが有効である。この場合、現地の状況に詳しいローカル・コンサルタントやNGOのスタッフとの共同で調査を実施すれば、更にきめこまかい情報を収集することが可能になるだろう。

情報源としては、ローカル・コンサルタント、NGO、協力隊員や対象国で援助を実施している他の援助機関や研究機関が考えられる。例えば、CIDAは既に数カ国で対象国の女性の状況についてのデータを収集している。これらの援助機関との情報交換を行えば、様々なレベルでの男性と女性双方の情報を得ることができる。一方、草の根レベルで活躍する協力隊員の中にも、自らの活動を通じて地域の生活全般だけでなく、その地域の社会組織に関する情報や男女間の役割分担に詳しい者が多い。協力隊員のこのような情報を整備していくことも重要である。

b. よりよい案件の発掘・形成

案件の発掘・形成段階で社会・ジェンダー分析を行う目的は、対象社会の状況を詳細に把握し、案件形成に必要な情報を提供することにある。案件実施による地域住民の生活への影響を考慮しようとするれば、地域の社会的特性や男女間の役割分担を含めた対象社会に関するきめこまかな情報が必要となる。

実際のところ、開発調査の事前調査などでも地域社会の情報の必要性は徐々に認識されつつあり、WID配慮団員や社会環境配慮団員が派遣されるケースが増えてきている。これらの調査の派遣期間は通常2週間から1カ月前後で、必ずしも対象地域全体の社会・ジェンダー分析を行う十分な時間の余裕があるとはいえない。しかし、特定の地域（もしくは村）をサンプルとして選び、社会・ジェンダー分析の適用を試みるだけでもその地域の男性と女性の状況はかなり

明確になるはずである。対象地域全体に社会・ジェンダー分析を実施する必要性があると判断された場合は、地域の状況に詳しいローカル・コンサルタントに十分にTORをつめた上で分析を委託することも検討すべきであろう。

調査の時間的な制限を克服するには、調査団が社会・ジェンダー分析の実施を行う前にプロジェクト実施候補地域での情報収集をしておくことが効果的である。例えば、プロジェクト実施候補地域で活動している協力隊員がいる場合には、隊員から事情聴取を行うことで、ある程度分析スコープを絞り込むことが可能になろう。さらに、対象地域で活動している他の援助機関やNGOなどと積極的に対話することで地域住民に関する多くの情報が得られる。

c.実施段階

プロジェクトの実施段階で社会・ジェンダー分析を実施する意義は、以下の通りである。プロジェクト対象社会の男性と女性双方の状況についての情報を始め、対象地域に関する基礎的な情報の収集と分析を定期的に行うことによりプロジェクトの内容や実施方法を必要に応じて修正し、現地の状況に適したより効果的なプロジェクトを実施することにある。

プロジェクト実施期間中の社会・ジェンダー分析の適用は、活動の進捗状況に応じてカウンターパートとプロジェクト専門家が一緒に行うのが理想的である。社会・ジェンダー分析手法を身に付けた長期専門家がプロジェクト内にいない場合は、社会・ジェンダー分析を専門とする短期専門家の派遣を検討すべきである。いずれの場合も、社会・ジェンダー分析の結果がプロジェクトに十分反映され、その結果に基づいてプロジェクトの修正が可能になるためには、分析を担当する専門家が他の専門家と共に働く機会を持ち、互いに情報の交換をする場が確保されることが肝心である。

d.評価段階

実施したプロジェクトの効果を評価する際、社会・ジェンダー分析を行なうことで、対象社会の男性、女性に公正に便益が配分されたかどうかが明らかになり、WID配慮をした新たなプロジェクトの発掘・形成に結び付けていくことができる。社会・ジェンダー分析を取り入れたプロジェクト評価は、JICAの評価監理課、評価調査団員がプロジェクト専門家や政府カウンターパートとともに実施することが望ましいが、その際、対象地域の男性、女性双方の住民から

事情聴取することが大切である。また、プロジェクト実施中に社会・ジェンダー分析を実施したのであれば、評価の段階で、分析実施に参加・協力したローカル・コンサルタントやプロジェクト活動に協力した現地NGOや協力隊隊員などの意見を求める必要がある。評価の一環として社会・ジェンダー分析を実施するのであれば、客観的な立場にある現地の大学・研究所の評価への参加も今後、検討に値する課題である。

添付資料1

キー・ワード

以下の単語には、例えば、「アクセス」や「コントロール」といったように日常的に使われる用語もあるが、ここでは特にそれらが「開発と女性」の分野において活用された場合の意味を扱っている。また、WIDに関する用語には、必ずしも統一された定義がないものがある。しかし、本報告書で以下の用語を使う場合には、ここで表記されている意味を示すものとする。

なお、キーワードは、大きく 1.WIDに関する用語 2.ジェンダーおよび社会・ジェンダー分析に関する用語に大別して記述した。

1.WIDに関する用語

開発と女性 (Women in Development=WID)

女性が開発における受益者のみならず、自主的な開発の担い手であることに留意し、開発プロジェクトのあらゆる段階への女性の積極的参加の確保に配慮した開発援助を進めることをWIDという。WIDの目的は、開発途上国において社会的・経済的活動を担っている女性達の役割を考慮することによって、より効果的な開発援助を行うことである。

WIDの意味は、時代の流れとともに変化してきている。WIDが導入された当初は、女性を限定した対象として扱うことが多かったが、貧困や住民参加などの概念とともに持続的な開発の中心的テーマになるにつれて、プロジェクトの立案や決定過程への女性の「参加」や「エンパワーメント」が強調されるようになっていく。

開発とジェンダー (Gender and Development=GAD)

社会的に不利益な立場にいる人々のエンパワーメントを促進し、ジェンダーを含む様々な不平等な社会関係を改善することによって、持続的で公平な開発を押し進めることをGADという。WIDでは、開発を支援する際に女性が主たる対象となっているのに対し、GADは男女双方の状況と役割そして男女関係を含めた様々な社会的関係を対象とする。

国連婦人の10年 (United Nations Decade for Women)

国連は、1972年の総会において、女性の地位向上をめざした世界的規模の行動を行うために1975年を「国際婦人年」と定めることを決議した。その中心的な行事として、メキシコ市で開催された国際婦人年世界会議では、男女平等の促進、社会・経済・文化の発展への女性の参加、国際親善と国際協力への女性の貢献という目標の達成に向けて「世界行動計画」が採択された。同年の国連総会はこの行動計画を支持するとともに、1976年から1985年までの10年間を「国連婦人の10年」と定め、国際婦人年の目標達成のための努力を継続することを提唱した。国連は、この期間に各国が行動計画を策定しそれを実施、評価することを目標とした。

ナイロビ将来戦略 (Forward Looking Strategies)

「国連婦人の10年」の最終年にあたる1985年にケニアの首都ナイロビで「国連婦人の10年の成果のレビューと評価のための世界会議：平等、開発、自由」が開催された。その時にまとめられた10年間の活動に対する評価に基づいて作成され選択された戦略で、西暦2000年までに平等・開発・平和という目標達成のため、引き続き各国が取り組むべき実践のためのガイドラインを示したものの。

WIDプロジェクト (WID-Specific Project / WID-Integrated Project)

WIDのプロジェクトは、プロジェクトへの女性の関わり方によって大きく2つに大別できる。

ひとつは、女性のみを対象とした、あるいは女性を主たる対象としたプロジェクトでWID-Specific Projectと呼ばれる。このほかに、女性のみを対象にするのではなく、援助プロセスに女性への配慮を取り入れることを重視したプロジェクトがあり、これはWID-Integrated Projectと呼ばれる。WID-Integrated Projectでは、プロジェクトにおいて女性への配慮を行うために女性の参加が重要であるとしている。

WIDフォーカル・ポイント (WID focal point)

WIDフォーカル・ポイントは、事業部の職員や在外事務所において、必要がある場合にWIDについて他の職員に情報を提供したり、またWIDに関して他の職員にアドバイスを与える役割を兼任している職員を示す。国際機関では、在外事務所のWIDフォーカル・ポイントは、途上国政府とのWID進展に関しての折衝の前面に立つ。

エンパワメント (empowerment)

“エンパワメント”という語は単に一人一人の女性が力をつけるだけでなく、社会改革の担い手として、女性が連帯して力をつけていくという意味合いをもっている。

WIDの領域でこの言葉が活用される場合には、個々に女性が力をていくことのみではなく、草の根レベルや女性同士の横の連帯を形成することも意味する。特に長期的な視点に立って女性の社会的地位を変えていこうとする場合に、エンパワメントという概念が使われる。

社会的弱者 (The disadvantaged)

社会的弱者とは、一般的に貧困層、移民、少数民族、女性など社会の政治、経済、文化面で疎外され不利な立場にたたされている個人、あるいは集団を示す。

周縁的な (marginal)

一般的には、貧困層や移民、少数民族や同性愛者など、ある社会の政治、経済、文化面において多数派を占める集団によって社会の「周縁 (margin)」に追いやられる状況を示す。ただし、WIDでは、男性優位社会において、女性がアクセスやコントロールから疎外されている状態を示す用語としてよく使用される。そのような状態になることを周縁化 (marginalization) という。

ターゲティング (targeting) とメインストリーミング (mainstreaming)

プロジェクトにおいて女性への取り組み方を示す言葉として、メインストリーミングとターゲティングがある。ターゲティングとは、女性を特定の対象として取り組むことを意味する。

これに対し、メインストリーミングには2つの使われ方がある。ひとつは、女性は開発における単なる受益者だけではなく、より積極的な参加者でもあるがゆえに、女性が開発の過程において、「男性と並んで主役であるべき」という「概念」を示す場合。2つめは、その概念を具体化するために、援助活動で積極的にWID配慮を行う具体的な活動を示す。ここでのメインストリーミングとは、マクロレベルの援助政策プログラムづくりから個々のプロジェクトの作成や運営にいたるまでの、あらゆる援助活動に男性とは違った女性の抱える様々な問題への対応方法を意識し、その解決方法を提示することである。

2. ジェンダーと社会・ジェンダー分析に関する用語

ジェンダーに中立的な (gender neutral)

特定の活動が男女関係に全く影響を及ぼさない時、これをジェンダーに中立的であるという。しかし、ジェンダーに中立な活動はほとんどありえない。いかなる人間の活動も社会の中で行われ、そしてその社会に男性と女性がいるかぎり、全ての活動は直接的にせよ間接的にせよ、男女関係に影響を及ぼす。

ある機材の供与は、女性を男性に対して特に差別するとは考えられなかったので「ジェンダーに中立的」と思われていた。しかし、このような機材供与でも、女性が仮に男性よりも教育程度が低く、男性の方がその機材をより使いこなせるとすれば、潜在的に女性よりも男性をより利する可能性がある。そのためこの例もジェンダーに中立的ではない。したがって、この例では機材供与もやり方によっては次項の「ジェンダー・ブラインド」に近い意味を持つ。

ジェンダー・ブラインド (gender blind)

ジェンダー配慮がなされていない状態。つまり男女が違った役割やニーズをもっていることを無視している援助活動は「ジェンダー・ブラインド」という。

ジェンダー・センシティブ (gender sensitive/gender responsive)

プロジェクトが対象社会の男女の違った役割やニーズに配慮している場合には「ジェンダーにセンシティブ」と言う。

ジェンダー分析 (gender analysis)

対象社会の状況を把握するための分析手法のひとつ。男女の役割やニーズの違いを明らかにすることを目的として、対象社会の男女の状況、役割分担およびその実施状況、相互関係などを把握するために分析を実施する。ジェンダー分析のフレームワークは、対象社会にある集団を比較分析する上でも有効である。そのため、宗教や社会階層などによって分類される集団の分析にも活用できる。

アクセスとコントロール (access & control)

アクセスとは「土地、労働、資金といった経済活動を行う上での資源やサービスなどを使用できること、あるいは使用する権利を有すること」を意味する。これに対してコントロールは「資源やサービスなどの管理について決定したり、所有したりする権利」を意味する。

例えば、アフリカにみられる例のようにでは、伝統的に女性は土地の耕作権を有するが所有権はない場合は、「女性は土地に対してアクセスがあるがコントロールがない」という。また、教育の機会がある場合は「教育へのアクセスがある」などの使い方をする。

生産活動/再生産活動/地域の管理に関する活動

(productive activities, reproductive activities & community management activities)

社会・ジェンダー分析の活動状況の把握では、これらの分野の活動状況が把握される。

生産活動とは、金銭的対価を伴うものとそうでないものがある。例えば現金収入を得るために商店で売る活動も含まれるし、家族が食べる野菜を栽培することもある。生産活動を男女別にみれば、一般に女性の活動は家族が食べる野菜を栽培する時のように無収入であることが多い。そのため、統計や資料に記載されることが少なく、分析に際して見落とされる可能性が多いことを留意しなくてはならない。

再生産活動には、子供を生み、育てることといった「次世代を再生」する活動と洗濯や炊飯といった家族員が日々の生活を維持していくための活動が含まれる。これらの活動は多くの時間を費やすにもかかわらず、経済的収入と直接関係しないために見落とされることが多い。ほとんどの社会でこれが女性の主な活動となっている。

地域社会の管理に関する活動とは、住民達が共有している森林、食糧、水の管理、あるいは地域社会そのものの維持運営にかかわる活動である。男性と女性はこれらの諸活動のなかでも異なった活動を分担する傾向が強い。例えば、「日常生活」に強くかかわる森林の管理に関する活動は、女性によって行われることが多い。また、村長としての仕事など「政治的」色彩の濃い活動は男性によって行われることが多い。地域社会の管理を円滑に行うためには、双方の活動がバランスよく行われる必要がある。

ジェンダー・ニーズ/実践的ニーズ/戦略的ニーズ

(gender needs/practical needs /strategic Needs)

ジェンダー・ニーズは、大きく分けて2種類ある。ひとつは、対象社会で男性と女性が各々の役割や責任を遂行するために必要なニーズで、「実践的ニーズ

(practical needs)」と呼ばれる。もうひとつは、不平等な男女の関係性を変えていくためのニーズで「戦略的ニーズ (strategic needs)」と呼ばれる。

「実践的ニーズ」は、水、電気、肥料、教育など具体的に不便、不利な状況を緩和するためのニーズを示す。途上国では生活状況が整わないので、水、家、教育など日常生活に不可欠なニーズに関わるものが多い。そのためこのニーズは「実践的」と呼ばれる。このニーズは既存の男女関係と対立するものではない。

これに対し「戦略的ニーズ」は、女性が置かれている従属的な状況を改善するためのニーズを示す。女性の従属的な状況は、男女の役割分担、権力への接近や様々な形の男性による女性の支配に関する問題に由来するため、女性の法律的権利の確保、家庭内で女性が受ける暴力に対する保護、賃金や社会的待遇面での男女平等なども含む。それゆえこのニーズを満たすためには、既存の男女関係の変革が必要となる。戦略的という意味はここにある。

添付資料 2

CIDA のPAMアネックス



Agence canadienne de
développement international

Canadian International
Development Agency

L'INTÉGRATION DE LA FEMME DANS LE DÉVELOPPEMENT (IFD) ANNEXE AU MAP

WOMEN IN DEVELOPMENT (WID) -- PAM ANNEX

N° de projet
Project no.

POPULATIONS-CIBLES - TARGET GROUPS

L'ensemble des groupes sociaux (groupements villageois, groupements féminins, groupements coopératifs, associations locales) et des partenaires locaux (homologues, femmes, hommes, jeunes, aînés) à qui le projet devrait bénéficier.

EXEMPLES

- 1. dans un projet d'assistance technique : les homologues
- 2. dans un projet de bourse : les boursiers
- 3. dans un projet d'infrastructure routière : les usagers de la route

All social groups (village groups, women's groups, co-operatives, local associations) and local partners (counterparts, women, men, young people, senior citizens) that will benefit from the project.

EXEMPLES

- 1. in a technical assistance project: the counterparts
- 2. in a scholarship project: the students
- 3. in a road infrastructure project: those who use the road

Nombre de femmes
Number of women

Nombre d'hommes
Number of men

TOTAL

CONSULTATION AUPRÈS DES FEMMES - CONSULTATION WITH WOMEN

Les femmes ont-elles été consultées lors de la planification du projet?
Were women consulted when the project was being planned?

OUI
YES

NON
NO

Détails sont fournis à l'Annexe A, section
Details are provided in Annex A, section

BÉNÉFICES PRÉVUS POUR LES FEMMES - EXPECTED BENEFITS FOR WOMEN

Les bénéficiaires directs sont les personnes qui, immédiatement et sans intermédiaire, retirent de la réalisation du projet des avantages mesurables, tant au niveau des intrants que des extrants.

- 1. Elles sont habituellement partie prenante du projet, soit à titre de partenaire, de participante ou d'homologue
- 2. Elles tirent des avantages mesurables de leur participation au projet, soit sous forme d'intrants ou d'extrants
 - a. au niveau des intrants, il peut s'agir de celles qui reçoivent une rémunération, de l'équipement, des fournitures, des biens matériels, des bourses d'études, des stages de formation, etc.
 - b. au niveau des extrants, il peut s'agir de celles qui reçoivent certains services tels que : santé, éducation, crédit, services collectifs de base; ou de celles qui ont accès à l'utilisation d'une infrastructure (routes, réseau d'électricité, aménagement hydraulique, puits, etc.)

Direct beneficiaries are those who, as a result of the project, obtain immediate, measurable gains and / or privileges at either the input or output level.

- 1. They are those who usually take part in a project as partner, participant, or counterpart.
- 2. They obtain measurable gains at either the input or output level from their involvement in a project:
 - a. at the input level, it applies to those who receive remuneration, equipment, supplies, material goods, scholarships, training sessions, etc.
 - b. at the output level, it applies to those who receive services such as: health care, education, credit, basic common services; or to those who use a project's infrastructure (roads, electrical network, water supply system, wells, etc.)

Les femmes bénéficieront-elles DIRECTEMENT du projet?
Will women benefit DIRECTLY from the project?

OUI
YES

NON
NO

SI OUI, précisez à quel niveau et donnez le pourcentage estimatif des femmes bénéficiaires.
IF YES, estimate percentage of beneficiaries who are women and specify at what level.

AU NIVEAU DES INTRANTS - AT THE INPUT LEVEL	< 5 %	6-10 %	11-25 %	26-50 %	51-75 %	76-100 %
AU NIVEAU DES EXTRANTS - AT THE OUTPUT LEVEL	< 5 %	6-10 %	11-25 %	26-50 %	51-75 %	76-100 %

LE RÔLE DES FEMMES DU PAYS BÉNÉFICIAIRE DANS LE PROJET - THE ROLE IN THE PROJECT OF WOMEN FROM THE RECIPIENT COUNTRY

Précisez à quels niveaux les femmes ont participé et / ou participeront au projet (cochez TOUTES les cases appropriées).
Specify the levels at which women have participated, or will participate, in the project (check ALL appropriate boxes).

planificatrices planners	gestionnaires / administratrices managers / administrators	formatrices / animatrices trainers / group leaders	boursières / stagiaires scholarship recipients / trainees	aucune participation no participation
professionnelles professionals	techniciennes technicians	ouvrières labourers	cadres supérieures / intermédiaires senior / intermediate managers	

BARRIÈRES À LA PARTICIPATION DES FEMMES - BARRIERS TO WOMEN'S PARTICIPATION

Les obstacles à la pleine participation des femmes au projet peuvent être d'ordre économique, social, juridique, culturel, religieux ou politique, selon le contexte du pays bénéficiaire et la situation des femmes dans ce pays.

EXEMPLE

Obstacle d'ordre culturel dans le cadre d'un projet d'accès au crédit pour les agriculteurs d'un pays donne : les femmes sont exclues du projet, car elles n'ont pas de titre de propriété terrienne à présenter lorsqu'elles veulent emprunter à une banque, la tradition ne leur permettant pas d'hériter de la terre.

Solution possible : ne pas exiger des femmes un titre de propriété terrienne et trouver une autre forme de garantie de prêt qui soit à leur portée.

Barriers that keep women from fully participating in the project can be economic, social, legal, cultural, religious or political in nature, depending on the recipient country and the situation of women there.

EXEMPLE

A project to give farmers in a certain country access to credit may not allow women to participate fully if they cannot get a loan because they cannot inherit land according to the country's traditions, and thus cannot submit a land title when applying for a loan at the bank. This is a cultural barrier.

Possible solution: women could be exempted from the requirement of submitting a land title and another, more suitable, way of securing the loan could be found for them.

Les barrières possibles ont été identifiées
Potential barriers have been identified

OUI
YES

NON
NO

SI OUI, les détails sont fournis à l'Annexe A, section
IF YES, details are provided in Annex A, section

Les mesures à prendre pour les réduire sont énumérées à l'Annexe A, section
Measures to be taken to minimize them are listed in Annex A, section

EXPERTISE IFD - WID EXPERTISE

L'expertise IFD est le recours à une ou des personnes (femme ou homme) qui reçoit / reçoivent le mandat spécifique d'identifier les facteurs qui favorisent ou, au contraire, limitent l'accès des femmes aux ressources économiques, sociales et politiques.

L'expertise en matière d'IFD a été/sera utilisée aux phases suivantes du cycle de projet (cochez TOUTES les cases appropriées) :

WID expertise has been / will be used in the following phases of the project (check ALL appropriate boxes):

WID expertise involves giving one or more individuals (male or female) the specific mandate to identify factors that favour, or hinder, women's access to economic, social and political resources.

planification planning	exécution implementation
suivi / évaluation follow-up / evaluation	aucune expertise requise no expertise required

DONNÉES FINANCIÈRES - FINANCIAL DATA

Contribution totale (000 \$) de l'ACDI
CIDA's total financial contribution (\$000)

Partie estimée (de la contribution de l'ACDI) qui bénéficiera directement aux femmes
Estimated portion (of CIDA's contribution) that will directly benefit women

À L'USAGE DE LA SECTION IFD - FOR WID SECTION USE ONLY

☐ TYPE A ☐ TYPE B ☐ TYPE C

CHEF DE L'ÉQUIPE DE PROJET - PROJECT TEAM LEADER

Signature

Date

Une fois l'approbation finale obtenue, le chef de l'équipe de projet enverra copie du présent aux OPS des directions géographiques (BFP, BMP, BCP, BSP), aux Affaires publiques (CGG), au GCPG (BPD), à Mémoire corporative (YPE), à l'IFD (RSF), et au conseiller en environnement (RNO).
ACDI - CIDA 955 (01) 01

Upon final approval, the PTL will distribute copies of this form to all Area OPSs (BFP, BMP, BCP, BSP), Public Affairs (CGG), AEG (BPD), Corporate Memory (YPE), WID (RSF), and Environmental Advisor (RNO).

添付資料 3

ジェンダー分析研修 モデル例

ジェンダー分析研修 1日の研修 モデル例 1

モジュール 1 <目的> 開発、計画手法、ジェンダーに関する基本的概念を明確にする

- (1) 講義：開発、計画手法、ジェンダーへの入門
- (2) エクササイズ：特定の開発途上国での男性と女性の日常の活動
- (3) 全体討論

モジュール 2 <目的> ジェンダー分析に関わる考え方を導入する

- (1) 講義：ジェンダー分析に関する理論と手法の説明、また分析手法の導入によって起こりうる各種の変化を解説
- (2) エクササイズ：ジェンダー分析を幾つかの事例プロジェクトにあてはめる
- (3) 全体討論

モジュール 3 <目的> 援助機関の業務にジェンダー分析手法を導入

- (1) エクササイズ：援助機関の政策、プログラム、プロジェクトにジェンダー分析手法を導入
- (2) 全体討論

モジュール 4 <目的> 参加者の業務の中でジェンダー分析を定着させる

- (1) 全体討論：現在ある組織の仕事の中に定着させるために

コメント：

これは組織の中でのジェンダー分析の定着化に主点をおいているとも考えられる。管理職を対象とする研修に適しているかもしれない。

Caroline Moser, 1993 Appendix

ジェンダー分析研修 3日間の研修 モデル例 2

第1日

研修への導入：研修目的の説明等

グループ・エクササイズ：少人数での討論のための準備

全体討論：参加者の考え方、経験、また研修への期待の表明

講義：WIDやGADの歴史的概観

講義：世界的にみた女性の状況概観

第2日

エクササイズ：男女問題に関わる固定概念やステレオタイプの検討

エクササイズ：ジェンダーにまつわる価値観や態度

エクササイズ：ビデオを使った特定の途上国での女性の現状分析

講義：ジェンダー分析の説明

エクササイズ：ジェンダー分析の事例への適応

第3日

全体討論：ジェンダー分析の重要な概念の復習

講義：ジェンダー分析のプロジェクト・サイクルへの適応

全体討論：参加者のジェンダー分析への評価

全体討論：事後活動の検討

政策レベルへの導入

組織への定着のための課題

全体討論：研修を総括

コメント：

比較的スタンダードな研修のモデルと言えそうである。討論への参加者の積極的貢献が研修を実りあるものにする。

Canadian Council for International Co-operation et al

Two Halves Makes a Whole: Balancing Gender Relations in Development

添付資料 4

調査員構成および現地調査日程

<調査員構成>

現地調査	斎藤文彦	財団法人	国際開発センター	研究員
	高澤佐紀子	社団法人	海外コンサルティング企業協会	研究員
国内作業	菊池 剛	社団法人	海外コンサルティング企業協会	主席研究員

<現地調査日程>

調査団員

篠崎 泰昌 (JICA 国際協力総合研修所調査研究課課長代理)
高沢佐紀子 (海外コンサルティング企業協会開発研究所研究員)

11月28日 (日)	成田発 (19:30/PC002) トロント着 (17:15) トロント発 (19:00/CP824) オタワ着 (19:58)
11月29日 (月)	カナダ国際開発庁 (CIDA) 本部訪問 9:40 Mr.Julian Payne (Vice President of Asia Branch) 10:15 Ms.Marnie Girvan (Senior Advisor, WID Policy Branch) らと面談 14:00 Ms.Helen Lalonde (Social Gender Analysis Trainer)
11月30日 (火)	10:45 カナダ国際協力協議会 (Canadian Council for International Co- operation) 訪問 Ms.Monique Dion (Organizational Development Officer) らと面談 12:00 CIDAにてWIDコンサルタントと面談 12:30 各地域局の担当官と面談 Mr.David Morris (Asia Branch) Ms.Kathy Dunlop (Africa Branch) Ms.Ann Good (America Branch)
12月1日 (水)	9:00 CIDA訪問 Ms.Marnie Girvanらと再面談 オタワ発 (17:30/AC1365) ニューヨーク着 (20:30)
12月2日 (木)	14:30 国連開発計画 (UNDP) 訪問 Ms.Elizabeth Lwanga-Okwenje (Gender in Developmet Program) と面談
12月3日 (金)	ニューヨーク発 (10:00/AA2171) サンホセ (15:53) CIDA関係者と日程打ち合せ Ms.Joella Barbot Coldevin (Senior Advisor/ WID Specialist) Ms Lucie Bazinet (WID Consultant for Central America Program)
12月4日 (土)	07:00 アレナル環境保全 (Arenal Conservation and Development Project) プロジェクト・サイトへ移動 プロジェクト・サイト訪問
12月5日 (日)	プロジェクト・サイト訪問 14:00 サンホセへ移動

12月 6日 (月)	6:15 CCO及びMs.Barbot とホテル出発 サンホセ発 (07:50/SH650) テグシガルバ着 (09:20) 10:30 JICA事務所との打ち合せ 15:00 人権擁護促進／調査センター (Center for the Investigation and Promotion of Human Rights Program) 訪問 16:00 CIDA関係者との打ち合せ Sir.Lincoln Villaneuva
12月 7日 (火)	生活用水／衛生プロジェクト (Water Supply and Sanitation Project) 訪問
12月 8日 (水)	10:00 JICA看護教育プロジェクト訪問 九笹専門家らと面談 15:00 路上で働く女子の為の訓練プロジェクト (Professional Training for Girls Working in the Streets Project) 視察
12月 9日 (木)	09:30 ホンデュラス計画局訪問 Sr.Manuel Euceda (Vice -Minister for Planning , Honduras Government/Member of the Joint Committee, Honduras Canada For Counterpart Fund) テグシガルバ発 (14:00/AA945) マイアミ着 (17:19)
12月10日 (金)	マイアミ発 (07:40/AA027)
12月 11日 (土)	成田着 (16:15)

調査日程

調査団員

斎藤 文彦 (国際開発センター研究員)

11月28日 ～12月2日	同上の日程
12月 3日 (金)	10:00 国連開発計画 (UNDP) 訪問 Ms.Stephanie Urdang (Gender Training Advisor) と面談 15:30 国連児童基金 (UNICEF) 訪問 Ms.Misrak Elias (Senior Advisor, Women's Development Programme) らと面談
12月 4日 (土)	資料整理
12月 5日 (日)	ニューヨーク発 (15:00/UA4745) ワシントン着 (18:00)
12月 6日 (月)	11:00 DAI (Development Alternatives Inc.) 訪問 Mr.Virginia A. Lambert (Genesys Project) らと面談 15:00 アメリカ国際開発庁 (USAID) 訪問 Mr.Loie Godiksen (PPC/COIE/SDS) と面談
12月 7日 (火)	10:00 世界銀行訪問 (WB) 訪問 Ms.Kawabata (Gender Analysis and Policy Education and Social Policy Department) らと面談 14:00 アメリカ国際開発庁 (USAID) 訪問 Dr.Pietronella van de Oever (Genesys Project) と面談 ワシントン発 (18:55/UA918)
12月 8日 (水)	06:45 ロンドン着 11:00 イギリス海外開発庁 (ODA) 訪問 Dr.Anne Coles (Social Development Advisor) らと面談 14:00 ロンドンカレッジ大学、開発計画部 (University Collage London Development Planning Unit=DPU) Dr.Patrick Wakely (Director of DPU) らと面談
12月 9日 (木)	9:30 イギリス海外開発庁 (ODA) 訪問 Ms/Dr.Rosalind Eyben (Principal Social Development Adviser) と面談 12:00 Mr.Habuce Gragam (Social Development Department) らと面談

12月10日 (金)	10:00 JICA事務局への表敬訪問 中村JICAロンドン事務所長と面談
12月11日 (土)	19:00 ヒースロ発 (JAL402) 成田着 (15:45)

添付資料5

CCICによるWIDとGADの比較表

	WID (Women in Development)	GAD (Gender and Development)
焦点 (The Focus)	女性	男女の社会的役割とその相互関係 (ジェンダー)
問題認識 (The Problem)	世界の半分の生産・再生産などの活動になう女性が開発のプロセスから排除されている。	貧富の差や男女間の不平等な力関係が平等な開発や女性の参加に対する障害となっている。
目標 (The Goal)	より効率的で効果的な開発	女性および男性が意思決定者であるような平等で持続的な開発。
解決方針 (The Souttion)	・ 現行の開発の全段階に女性の参加、および女性に関連する事柄への配慮を取り入れる	・ 社会的に不利な立場にいる人々と女性のエンパワーメントを促進する。 ・ 様々な不平等な社会関係を改善する
具体的方法 (The Strategies)	・ 女性のためのプロジェクトを実施する。 ・ 女性の参加を促進する。 ・ 女性の参加が行われ、女性への配慮がなされているプロジェクトを促進する。 ・ 女性の生産性の増加を図る。 ・ 女性の収入向上を図る。 ・ 女性の家事能力の向上を図る。	・ 女性と男性が状況改善のために実践的ニーズを把握し、対処する。 ・ 女性の戦略的ニーズを把握し、対処する。 ・ 「人々を中心に据えた開発」を通じて貧困層の戦略的ニーズを把握し、対処する。

出所：Canadian Council for International Co-operation et.al. August 1991

Two Halves Make a Whole; Balancing Gender Relation in Development, Ottawa,p.76.

添付資料 6

参考文献

1. 英語

Buvinic, M.

- 1983 "Women's issue in Third World poverty" in M.Buvinic, M.Lycette and W.Mcgreevey, Women and Poverty in the Third World, Johns Hopkins University.

Buvinic, M.

- 1986 "Project for Women in the Third World" in World Development 14.

CCIC (Canadian Council for International Co-operation)

- 1991 Two Halves Make a Whole, Ottawa.

Chambers R.

- 1993 Rural Development: Putting the Last First, Longman, London.

CIDA (Canadian International Aid Agency)

- 1989 Women in Development A Sectoral Perspective.

CIDA 1992 Women in Development, CIDA.

CIDA 1992 Women in Development: A Policy Statement.

CIDA 1992 Experience in Gender and Development 1985-1991.

CIDA 1993 Women in Development.

CIDA 1993 Women and Fisheries Development.

CIDA 1992 Gender as Cross-Cutting Theme in CIDA's Development Assistance-An Evaluation of CIDA's WID Policy and Activities 1984-1992.

DAC (Development Assistance Committee)

- 1985 WID Guiding Principal.

Moser, Caroline O.N.

- 1993 Gender Planning and Development, Routledge.

ODA (Overseas Development Administration)

- 1988 A Strategy for Implementation of ODA's Policy on Women in Development.

ODA

- 1993 Report of Progress in Implementing ODA's Policy on Women in Development 1991/1992.

Rounaq Jahan

- 1992 Mainstreaming Women in Development in Different Settings
A paper presented to OECD/ DAC/ WID Expert Group in March 1992.

Sen, A

1990 "Gender and co-operative conflict " in I. Tinker (ed.) Persistent Inequalities.
Oxford

UNDP (United Nations Development Programme)

1991 Human Development Report 1991.

UNDP

1992 Human Development Report 1992.

UNDP

1993 Annual Report of the Administrator for 1992 and Programme Level Activities
Women in Development Report of the Administrator, 27, Jan 1993.

UNICEF (United Nations Children's Fund)

1985 UNICEF Response to Women's Concerns, Executive Board 1985 Session.

USAID (United States Agency for International Development)

1992 Women in Development Report , FYs 1991 and 1992.

The World Bank

1979 Recongnizing the "Invisible " Women in Development.

The World Bank

1990 Women in Development: A Progress Report on the World Bank Initiative.

2.日本語

アルバート ハーシュマン

『経済発展の戦略』1958.

西垣昭 下村恭民

『開発援助の経済学』有斐閣 1993.

世界銀行

『世界銀行年次報告書』1974.

バンコク商工会議所

『タイ国経済概況』1991.

目黒依子

「性・ジェンダー・社会」 『ジェンダーと性差別』
女性学研究会編 勁草書房、1990.

添付資料7

現地調査入手資料

- | | | |
|-------------|------|---|
| Burkey,Stan | 1993 | People First
'A Guide to Self-Reliant,Participatory Rural Development'
UK.:Zed Books Ltd., |
| CCIC | 1992 | Main Streaming Women in Development in Different Settings
Canadian Council for International Co-operation,MATCH International Centre |
| CCIC | 1991 | Two Halves Make a Whole,Balancing Gender Relations in Development
Ottawa:Canadian Council for International Co-operation |
| CIDA | 1993 | Gender as Cross-Cutting Theme in CIDA's Development Assistance
-An Evaluation of CIDA's WID Policy and Activities 1984-1992, "WID
Country Case Study : Costa Rica" Working Paper Number 2A, CIDA,
Canada. |
| CIDA | 1992 | Gender as Cross-Cutting Theme in CIDA's Development Assistance
-An Evaluation of CIDA's WID Policy and Activities 1984-1992, "WID
Country Case Study : Jamaica" Working Paper Number 2B, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1992 | Gender as Cross-Cutting Theme in CIDA's Development Assistance
-An Evaluation of CIDA's WID Policy and Activities 1984-1992, WID
Country Case Study : Senegal" Working Paper Number 2C, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1992 | Gender as Cross-Cutting Theme in CIDA's Development Assistance
-An Evaluation of CIDA's WID Policy and Activities 1984-1992, WID
Country Case Study : Zimbabwe" Working Paper Number 2D, CIDA,
Canada. |
| CIDA | 1992 | Gender as Cross-Cutting Theme in CIDA's Development Assistance
-An Evaluation of CIDA's WID Policy and Activities 1984-1992, "WID
Country Case Study:Indonesia " Working Paper Number 2E, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1992 | Gender as Cross-Cutting Theme in CIDA's Development Assistance
-An Evaluation of CIDA's WID Policy and Activities 1984-1992, "WID
Country Case Study Philippines" Working Paper Number 2F, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1992 | Gender as Cross-Cutting Theme in CIDA's Development Assistance
-An Evaluation of CIDA's WID Policy and Activities 1984-1992, "WID
Policies in Selected Development Agencies" Working Paper Number 3, CIDA,
Canada. |
| CIDA | 1992 | Gender as Cross-Cutting Theme in CIDA's Development Assistance
-An Evaluation of CIDA's WID Policy and Activities 1984-1992
EXECUTIVE SUMMARY, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1992 | Gender as Cross-Cutting Theme in Development Assistance
-An Evaluation of CIDA's WID Policy and Activities 1984-1992, Final
Report, CIDA, Canada. |

- | | | |
|------|---------|--|
| CIDA | 1992 | WID Evaluation Study Phase 2 Report
-Volume 1 Results of Surveys, File Reviews and Discussions, CIDA,
Canada. |
| CIDA | 1992 | A Handbook for Social/Gender Analysis prepared by Coady International
Institute for Social and Human Resources Development
Division, CIDA, Canada. |
| CIDA | | Catalogue of Courses and Services 1993-1994
Professional Development Section, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1991 | Towards a National Plan of Action for Women, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1992 | Women in Development a Policy Statement, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1986 | Barriers and Strategies for Overcoming Barriers to Women's Participation
in Training and Scholarship Programs, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1991-92 | Annual Report 1991-92, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1992 | CIDA's Policy for Environmental Sustainability, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1990 | Women in Forestry
Case Study of the Andhra Pradesh Social Forestry Project -India, CIDA,
Canada. |
| CIDA | 1992 | Women and Fisheries Development, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1989 | Women in Development and the Project Cycle, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1991 | Violence against Women : A Development and Human Rights
Issue, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1993 | Women in Development Les femmes dans ie development, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1989 | Women and Multilateral Adjustment Programs
A Summary of the Issues, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1992 | Canadian Council For International Co-operation
Gender and Development Readings, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1993 | Bangladesh Program Wid Library, CIDA, Canada. |
| CIDA | 1992 | Report : Integration of Wid/Gender Equity into the Course "Introduction to the
Sustainable Development Framework"(Draft), CIDA, Canada. |
| CIDA | 1993 | Infrastructure and Gender Analysis
-Checklist for Rural Road Project-, CIDA, Canada. |

- CIDA 1993 The Funding Guide, CIDA, Canada.
- CIDA 1993 Canadian Council For International Co-operation, CIDA, Canada.
- CIDA 1992 Working With Women, CIDA's Gender Strategy in Bangladesh, CIDA, Canada.
- CIDA 1993 Women and Aids a Global Health Challenge -A Video Proposal-, CIDA, Canada.
- CIDA 1993 Pentacle International Consulting, CIDA, Canada.
- CIDA 1992 Working With Women, CIDA, Canada.
- CIDA 1987 Sharing Our Future, CIDA, Canada.
- Demery, Ferroni, Grootaert and Wong-Valle, Lionel, Marco Christiaan and Jorge
1993 Understanding the Social Effects of Policy Reform
U.S.A.:The World Bank.
- Downing Jeanne
1990 Gender and the Growth and Dynamics of Microenterprises,
GEMINI Working Paper No.5
Washington, D.C.:GEMINI
- Eggen Carole 1990 Islam and Women's Development Programming in Bangladesh
A Study Prepared for the Women in Development Directorate,
CIDA, Canada.
- Finney-Hayward Ruth
1990 Report on WID at FINNIDA : Opportunity for Change, WIDAGRI
Consultants LTD., Finland
- FINNIDA 1991 Guidelines for Project Preparation and Design, Finnish International
Development Agency, Finland
- FINNIDA 1990 The Role of Women in the Finnish Development Co-operation
Guidelines and Programmer of Action, Finnish International Development
Agency, Finland
- FINNIDA 1993 Looking at Gender and Forestry, Finnish International Development Agency,
Finland
- Grown, Gita Sen and Caren
1987 Development, Crises, and Alternative Visions
'Third World Women's Perspectives'
U.S.A.:Monthly Review Press.
- Helene Lalonde Consultant
1989 Guidelines for the Integration of Women in the Project Cycle, prepared for the
Women in Development Directorate Professional Devices Division, CIDA,

- Jacobson Jodi L.
1992 Worldwatch Paper 110 Gender Basis: Roadblock to Sustainable Development
Washington, D.C.: Worldwatch Institute
- Moser, Caroline O.N.
1993 Gender Planning and Development 'Theory, Practice & Training'
U.S.A.: Routledge
- ODA 1991 Children by Choice Not Chance Population as a Development Priority
London: ODA
- ODA 1993 Britain and Bangladesh
London: ODA
- ODA 1992 Women in Development
London: ODA
- ODA British Overseas Aid Annual Review 1992
London: ODA
- ODA Report On Progress In Implementing ODA's Policy On Women
In Development 1991/1992
London: ODA
- Parker, A. Rani 1993 Training Manual 'Another Point of View
: A Manual on Gender Analysis Training for Grassroots Workers'
U.S.A.: UNIFEM (United Nations Development Fund for Women)
- Prindiville Joanne C.J.
1989 Women and Islam in Indonesia
Report to the Women and Islam Project of the Women in Development
Directorate, CIDA, Canada.
- Rao, Anderson and Overholt, Aruna, Mary B, and Catherine A.
1991 Gender Analysis in Development Planning 'Teaching Notes'
U.S.A.: Kumarian Press Inc.,
- Rao, Anderson and Overholt, Aruna, Mary B, and Catherine A.
1991 Gender Analysis in Development Planning 'A Case Book'
U.S.A.: Kumarian Press Inc.,
- Royal Tropical Institute
1992 Women and Development
'an annotated bibliography 1990-1992 Based on Rural Development in the
Tropics (Vol.5, no.1-Vol.7, no.4)' The Netherlands: Royal Tropical Institute
Department of Information and Documentation.

Sala Maija	1992	FINNIDA Practical Women in Development Programmer Assessment, OY KOSANA LTD Consulting, Finland
USAID/R&D/WID		The GENESYS Project,A Project Summary USAID/R&D/WID
USAID		Women in Development Report,FYs1991and 1992 Washington,D.C.;USAID
UNIFEM		Strength in Adversity:Women in the Developing World New York:United Nations Development Fund For Women(UNIFEM)
UNIFEM	1993	Infamy Annual Report 1992 New York:UNIFEM
UNIFEM		Agenda 21,An Easy Reference To The Specific Recommendation of Women New York:UNIFEM
UNIFEM	1993	UNIFEM's experience in main streaming Focusing of Women New York:UNIFEM
UNIFEM	1990	Women on the Agenda :UNIFEM's experience in Main streaming With Women,1958-1990, New York:UNIFEM
UNIFEM		Women Environment Development,Action For Agenda 21 New York:UNIFEM
UNDP	1988	Women in Development :UNDP
UNDP	1989	Women in Development :UNDP
World Bank	1993	Paradigm Postponed: Gender and Economic Adjustment in Sub-Saharan Africa : Africa Technical Department,Human Resources and Poverty Division
World Bank	1993	Progress Report on the World Bank's Activities on Women in Development,World Bank,International Monetary Fund
World Bank	1993	Making the Grade: Transforming the Development Agenda in the Africa Region AFTHR:Africa Technical Department Human Resources and Poverty Division

